

## 平成27年度カキ養殖概況

石黒貴裕\*・村山史康

**養殖規模** 平成27養殖年度のマガキの漁業協同組合別養殖状況を表1に示した。経営体数は前年度から3経営体減少し151経営体であった。筏台数は、広島県の採苗不調により種苗を必要量確保できなかった漁業者がいたため、前年度から35台減少し1,981台であった。

**養殖経過** 本年度の牛窓沖海水温の年間偏差の推移を図1に示した。4月から10月にかけて平年値との差は-1.4℃から2.0℃の間で変動していたが、11月以降は平年値を常に上回り、1月には平年値よりも最大で2.3℃高くなった。その後も平年値よりも概ね1.0℃以上高く推移した。

クロロフィルa量の全漁場平均値は、抑制期(4~9月)は6.2μg/Lと、平年(5.2μg/L)より1.0μg/L高かった。また、養成期(10月~翌3月)では4.4μg/Lと、平年(3.2μg/L)より1.2μg/L高かった。

本垂下は4~5月下旬の間に、沖出しは10月上旬に、生産は10月下旬~11月上旬の間に例年どおり順次開始された。12月まで暖冬の影響により需要が少なかったことに加え、他県産のカキの身入りが良かったため、県内産カキの消費が伸びず、日生町漁協、牛窓町漁協では週3日程度休漁日が設定された。1月以降は気温の低下とともに需要が回復したことや、身入りが良くなったことから消費が伸びたため、順調に生産が行われた。

**生産結果** 東部海域(日生町、伊里、邑久町、牛窓町)の年間生産量は前年度比142%となる3,166トンとなったが、西部海域(寄島町、笠岡市)は広島県での採苗不良により種苗が十分量確保できず、前年度比69%となる107トンであった。全県のむき身生産量は、前年度比137%となる3,272トンであった。

カキ出荷期間中に県が実施したノロウイルス検査では140検体中、1検体で陽性となり、陽性率は0.7%であった。

**その他** 県内採苗は日生町漁協、伊里漁協、邑久町漁協、牛窓町漁協で7、8月に行われたが、8月上旬までには予定枚数を確保することができた。

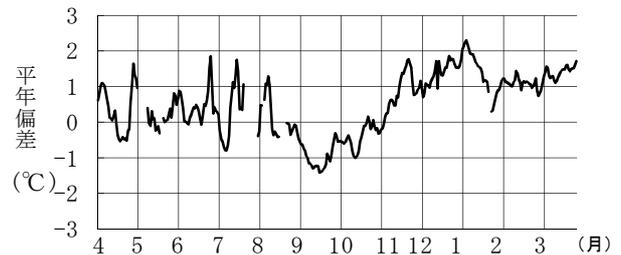


図1 平成27年度の牛窓沖海水温における平年偏差の推移(平年値は1981~2010年の平均)

表1 マガキ養殖状況(平成27養殖年度)

| 漁協名 | 経営体数 | 筏台数   | 沖出し時期<br>(月日) | 生産時期<br>(月日) | 生産量    |          |
|-----|------|-------|---------------|--------------|--------|----------|
|     |      |       |               |              | むき身(t) | 対前年度比(%) |
| 日生町 | 49   | 491   | 10/9 - 10/11  | 10/29 - 4/9  | 1,380  | 128      |
| 伊里  | 5    | 43    | 10/9 - 10/11  | 10/29 - 3/31 | 23     | 142      |
| 邑久町 | 70   | 1,246 | 10/1 - 10/18  | 10/29 - 5/1  | 1,598  | 160      |
| 牛窓町 | 6    | 111   | 10/5 - 10/7   | 10/29 - 4/9  | 165    | 117      |
| 寄島町 | 16   | 72    | 10/5 - 10/15  | 11/14 - 3/31 | 102    | 74       |
| 笠岡市 | 5    | 18    | -             | -            | 5      | -        |
| 合計  | 151  | 1,981 | 10/1 - 10/18  | 10/30 - 4/30 | 3,272  | 137      |

\*岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課